

◇戸 沢 藤 一 君

○議長（伊藤福章君） 次に、10番戸沢藤一君、登壇願います。10番。

（10番 戸沢藤一君 登壇）

○10番（戸沢藤一君） ただいまから3点ほどについて一般質問を行います。

まず最初ですけれども、本年度実施する塚2地区の町営住宅に関する質問です。

最近の住宅建設に当たっては、建築の多様化と安い価格の外材に押されて国内産の木材、特に秋田県産の杉ですが、これは原木の価格の低下と需要の低迷が続いて久しいというようなことから、県では昨年まで家を建てる方に角材50本をプレゼントしてきたようですけれども、今年度からは広報美郷3月号にも紹介されてありますように、申し込み条件を満たした場合、21万6,000円分の内装材をプレゼントするとありました。これは秋田杉の需要を促すとともに、森林の持つ多面機能の維持、つまり二酸化炭素の吸収や地球温暖化の防止にも貢献していることから、森林を適切に管理し、ひいては林業生産活動の振興を目指すものと私は理解しているところでございます。

ところで、美郷町内では民有林約3,000町歩ほどあるようです。そのうち杉の植えられている面積は1,852町歩ほどと聞いております。また、美郷町には杉の植えられている町有林面積が約500町歩ほどありまして、その杉の樹齢というのは70年から90年くらいとすばらしい美林となっているのを、4年ほど前ですか、当時職員から案内されて千畑議員が外川原の一部を視察した経緯もございます。このようなことから、塚地区の町営住宅の建設に当たっては、本当は12月定例議会で質問する予定でしたけれども、いろいろな事情でできず今回になりましたけれども、設計の段階から町内の建築士によるコンペを行って優秀なものを採用するとか、また、建築資材、材料も町有林を間伐し使用することにより町有林の適切な管理となって、残った杉の蓄積にもつながると。将来の財産の増加にもなるというようなこともございます。町営住宅を美郷町ならではのこだわった住宅として建設することが事業目的にも沿ったものと思われませんが、町長の見解をお伺いいたします。

2点目です。美郷町の観光客誘致についてでございます。

去る2月24日の魁新聞に、県内全市町村の首長が韓国を10月か11月ごろ訪問し、将来を見据えた観光客の誘致、経済交流など、大きな可能性を持つソウル便の有効活用を見直すべきとの観点から、トップセールスを実施したいとありました。16年度県内観光客数は1,050万人ほど来ているようですし、美郷町にも115万人ほど訪れていると総合計画書にあります。昨年度、17年度においても105万人ほど来ていると聞いております。このことから、町独自または近隣の市と連携で観光ルートを組み、冬場には六郷の有名な竹打ちと温泉、また、6月から7月にかけての清水めぐりやラベンダーあるいは花菖蒲など、国内のみならずソウル便を利用した海外からの観光客を誘致するにもそこそこ魅力ある行事や催しごとがあるわけでございます。

しかし、町内へマイカーで来る場合はよしとしましても、大型バスで国道や県道、町内の主要道路から会場周辺への駐車場までのアクセス道路を見ますと、大型同士の交差は無理だったり、普通車との交差にも難儀しているのが現実でございます。一つの例ですけれども、ラベンダー開園時には大型バスも来るようですし、道路が整備されればもっともって来だろうと言われております。今善知鳥外川原線の拡幅整備もされておまして、この路線からメインまでの道路、約 500 メートルほどの現在既存の道路があるわけでございます。この道路から駐車場へいくような、拡幅することによって大型バスも入ると。また、今言った 500 メートルほどの道路ですけれども、それを真っすぐ進みますと今年度計画されている堆肥センターへもつながります。工事車両なんか結構通ることと思いますので、ぜひ早い時期に計画された方がよいのではないかという思いでございます。いずれ観光客が安心して通行できる道路整備が喫緊の課題と思いますが、町長の考えを伺います。

最後の質問でございます。児童生徒の安全についてでございます。

美郷町では、全町ぐるみの全校児童生徒が安心して登校・下校できるようにとの観点から、子供見守り隊の結成がなされたことについては、子供たちを事故や犯罪から守ると同時に、下校時の子供に悪さをしてみようかななどと思ったけれども、見守り隊のステッカーや黄色い帽子、あるいは腕章をつけた方と至るところで会うというようなことから、美郷町へ行ったら悪さができる環境ではないといえますか、そういうようなことになっておまして、犯罪の抑止にも大きな効果があると期待しております。これが一時的なものに終わることなく将来にわたって継続されることを強く願っております。

ところで、美郷町には昨年末時点で 106 人ほどの外国人がいるそうです。そのうち三十三、四人の方が結婚をなさっていると聞きます。この方々につきましては、言葉、文化、生活習慣の違いに戸惑いを感じながら生活している方も多いと思います。その結果起きたのが滋賀県長浜市の事件ではないのかなと思います。仮にそれが動機の一つだったといたしましても、その凶行は決して許されるものではないわけでございます。そういった犯罪を犯すのは何も外国人だけではございません。子供の虐待など悲惨な事件は至るところで起きているのが現実です。こういった事件から子供を守るという意味から、専門の相談所もございしますが、まず美郷町内の身近なところで、学校、幼稚園、保育所あるいは教育委員会などで保護者の抱えている悩みごとの相談に乗ってやる窓口というものが需要ではないでしょうか。その点につきまして教育長の見解をお伺いいたします。

以上です。

○議長（伊藤福章君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 戸沢議員のご質問にお答えいたします。

初めに、町営住宅についてですが、平成 18 年度建設予定の塚地区の住宅については、議員ご承知のと

おり、町村合併前の平成 16 年度に公営住宅整備事業として新規採択され、12 棟建設の基本設計を実施済みです。本年度、17 年度は施設整備工事や 18 年度建設予定の平屋建て及び 2 階建て住宅の実実施設計を委託し、既にその設計図書が納品済みの状況です。

議員ご提案の建築士によるコンペについては、意欲的な住宅設計などその長所が十分に理解されると思いますが、このたびの案件では既に基本設計や実施設計が完了していることから、ご提案のコンペについては今後の町営住宅整備の参考とさせていただきたいと存じますので、どうかご理解をお願い申し上げます。

また、秋田杉の使用につきましては、かねてより県産の乾燥秋田杉や集成材の秋田杉を使用しているところですが、引き続きこうした木材の利用に努めてまいりたいと存じます。

また、町有林の杉につきましては、今後、樹齢等の現況把握をきちんとするとともに、木材として提供できるまでの時間並びに各種経費を勘案し、今後その活用方途について検討してまいりたいと存じます。

次に、観光客誘致に向けた道路整備についてですが、美郷町の今後の観光振興におきましては、従来の観光資源やイベントを断片的にとらえるのではなくて、農業、商工業等の有機的なつながりや地域との連携をもとに、物産を含めまして美郷を丸ごと PR していくことが必要と認識しております。そこには見せるだけの観光ではなくて、地域経済が潤うための新たな産業として位置づけ、関連する産業分野といかに結びつけていくかが大きな課題になろうかと存じます。そのためには観光と物産との関係、物産を生産・製造する立場とこれを流通させ販売する立場、PR する立場との関係に着目する必要性があると感じております。農産物生産団体や観光を担う団体の機動力向上、商店街や小売り店舗あるいは観光資源を支える方々の意識改革など、それらが総合的に連携し機能することにより地域活性化が図られるものと存じます。

平成 18 年度は、観光協会の体制整備を初め、既存の景観や伝統行事、地域資源などの観光資源を新たな視点により見直し、あるいは検証を加え、魅力ある美郷観光を確立したいと思っております。こうした観光振興についての基本的な考え方や、例えばラベンダー園、六郷地区の清水、雁の里公園などの各観光施設、観光資源の立地条件などの背景を踏まえた上で、議員ご指摘のアクセス道路の整備は検討してまいりたいと考えておりますので、どうかご理解をお願いいたします。

以上をもちまして答弁を終わります。

○議長（伊藤福章君）教育長、登壇願います。

（教育長 高橋福雄君 登壇）

○教育長（高橋福雄君）戸沢議員のご質問にお答え申し上げます。

近年子供たちを巻き込んだ凶悪事件が発生していることに強い憤りと深い悲しみを感しているところ

でございます。このような事件は決して起こしてはならないものと強く思っているところであります。町におきましては、ご案内のとおり2月7日、地域の皆さんや団体、企業のご協力をいただきまして子供見守り隊のボランティアを結成しております。子供たちの登下校の安全確保にご協力いただいているところであります。現在ボランティア会員の数は410の個人と団体、車両では811台に上っております。しかしながら、議員ご指摘のとおり、最近では社会環境が大きく変化する中で、子育てに関するさまざまな問題が発生し、親による子供への虐待も大きな社会問題となっております。育児の役割を母親だけに負わせることなく、家庭内の分担、協力し合うことが必要でありますし、また、母親同士がお互いに子育ての不安や悩みを話し合い、そのストレスをため込まない工夫も必要ではないかと考えます。

子供への虐待は子供の心に深刻な影響を与えるばかりでなく、時としてとうとい命が親の虐待によって奪われるという痛ましい事故も発生しております。虐待を受けている要保護児童を早期に発見し、早期に対応することはもちろんのこと、発生予防に向けた取り組みや子供や家庭への早期の適切な支援・相談体制が重要であり、これが児童虐待防止につながるものと考えております。

具体的には、教育相談員の配置、学校や家庭とのさまざまな相談に応じる体制を整えること、保護を必要とする児童生徒の把握、情報の収集の強化を図ること、それから各幼稚園、保育園においては育児相談を随時受け付けし、子育ての支援の充実を図っているところであります。これらの施策を現在も実施しており、さらに内容を深める必要があると考えております。

さらには、就学時健康診断等の機会を活用し、保護者への子育てや非行防止などのさまざまな講座を開設し、家庭教育の推進に努めているところであります。また、町におきましても、昨年10月に医療、保健、警察、児童福祉、教育関係者による美郷町要保護児童対策地域協議会を設立しており、関係機関がその子供に関する情報や考え方、対峙法を共有し、お互いに協力・連携しながら要保護児童の早期発見と適切な指導や組織的支援を行ってまいりたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

○議長（伊藤福章君）10番戸沢藤一君。

○10番（戸沢藤一君）再質問ですが、塚住宅全部で12棟、今年度は3棟、残りの9棟分についても全部設計だとかそういうものができているもののでしょうか。また、まとめて言っちゃいますけれども、町長、ソウルの方へ行く予定でしょうか。

以上、2点。

○議長（伊藤福章君）町長、答弁願います。

○町長（松田知己君）塚住宅の件につきましては、実務的な内容でありますので、建設課長に答弁させます。

それでは、ソウルのことにつきましては、先般町村会の総会において、秋田県市町村振興協会の方か

らその旨の提案があったというふうなところでとまっております、その後、秋田県市町村振興協会の方から正式な文書が来たという旨は伺っておりませんので、今後の確認という話になるかと思えます。また、これも日程等によってその時点で判断したいというふうに思っております。

以上です。

○議長（伊藤福章君）建設課長。

○建設課長（照井一夫君）今年度の実施設計はできてございます。詳細そのものにつきましては、これから検討段階に入るということでございます。

○議長（伊藤福章君）10番戸沢藤一君。

○10番（戸沢藤一君）ぜひ町の活性化という観点からも、町内にも優秀な建築設計士さんがいるかと思えます。偽装なんか絶対しないというような建築士だけだと思いますし、何よりもひとつ美郷の材料で、秋田杉で、それをふんだんに使った住宅、そういうのを前面に出したような形でやることによって、美郷町の名をまた知ってもらおうというような効果もあるし、また、山の木を切ることによって、先ほども言いましたけれども、もう90年ぐらいの杉ですと、間伐した木でも十分立派な用材はとれるわけですし、1反歩30本ほど残せばいいというような話もございますから、そういうような形の管理をしていきますと将来はもう、合併しないで山がいっぱいある村もあったようですけれども、それに近いような収入なんかも得ることができるかと思えます。以上、ちょっと余計なことも申しましたけれども、これで質問を終わります。

○議長（伊藤福章君）これで10番戸沢藤一君の一般質問を終わります。